

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」^{ほうそうげんこう}放送原稿（1月31日（金）放送分）

テーマ 新着図書紹介

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。^{か ごしまけんりつあま}鹿児島県立奄美^{み としよかん}図書館です。

奄美図書館では毎月1日に新しい本が入ります。今日は、2月1日に図書館に入る本の中から5冊をご紹介します。

はじめに、一般書のご紹介です。

1冊目は、『伝え方が9割』という本です。著者はコピーライターである^{さ き き けい ち}佐々木圭一さんです。2013年年間ベストセラーで19位（トーハン調べ）となったそうですから、日本中の多くの人々が興味を抱いてこの本を手にとったことがわかります。

ふだんの生活の中で、何かを伝えるとき、言い方一つで相手の受け取り方も違ってくる、ということはありませんね。たとえば、「^{しばふ}芝生に入らないでください」という立て札と、「芝生に入ると、農薬の臭いがつきます」という立て札があったら、どちらの方が芝生に入らなくなるでしょう？あるいは、「ムダな電気を消して」とお願いするのを、「電気を消せば、星が見えるよ」と言い換えたらどうでしょう？この本は、相手の心に届くような伝え方をするための技術が簡潔にわかりやすく書かれています。伝え方のポイントさえ押さえおけば、不可能なことが可能になり、人生さえも変わるかもしれない！そんな明るい希望の持てる本です。

2冊目に紹介するのは、ワインソムリエとしておなじみの^{た き し ん や}田崎真也さんの著書『^{ほんかく}本格焼酎^{しょうちゅう}を愉^{たの}しむ』という本です。ワインソムリエである彼が焼酎について語っているのは意外な気がしませんか？この本の中で、田崎さんは全国96^{めいがら}銘柄の焼酎・^{あわもり}泡盛をテイastingし、その香りや味わい、また料理との合わせ方を紹介しています。もちろん、奄美の黒糖焼酎についてもふれています。私たちにとって身近な焼酎ですが、この本を読むと新たな発見があるかもしれません。また、今まで焼酎になじみがなかった方にとっては入門書になる1冊です。

次に、児童書のご紹介です。

1冊目は、『ちいさいきみとおおきいぼく』という絵本です。丘の上の大きな木の下に、大きなオオカミがずっとひとりですんでいました。ある日、大きいオオカミが日なたぼっこをしていると、小さいオオカミが丘をのぼってきて、あたりまえみたいに大きいオオカミのとなりにやってきました。そしてあたりまえみたいにいっしょに日なたぼっこをはじ

めました。ふたりとも何^{なん}にもしやべらずに。

そのあともずっとだまったままのふたりですが、お互^{たが}いのことを気にしているようです。だまりこくったままふたりの仲はどうなるのでしょうか。このお話の続きは、絵本の中でどうぞ。

2冊目は、『ふわふわ～白鳥たちの消えた冬～』という本です。ふわふわ、それは白鳥の赤ちゃんの羽毛のこと。物語は、5年生のふたりの女の子、香枝^{かえ}と有紗^{ありさ}が、公園の湖に白鳥たちをながめに来たところから始まります。主人公・香枝^{かえ}を通して描かれる家族、友だちの有紗^{ありさ}との関係、クラスメートたちとのつながりなど、香枝^{かえ}をとりまく人間関係をちりばめながら、ストーリーの中心は湖の白鳥たちへと向かっていきます。鳥インフルエンザの影響で、白鳥たちを殺処分しなければならない、という話が持ち上がるのです。白鳥をめぐって、様々な登場人物と共に、痛みやそれぞれの思いを感じることができる物語です。

最後は郷土に関する本のご案内です。

鹿児島県環境林務部自然保護課と鹿児島大学鹿児島環境学研究会が編集した、『鹿児島の100人 100の風景』という本です。鹿児島県出身者や鹿児島と何らかの縁^{ゆかり}のある人々100人に、自然の原風景や原体験についてインタビューしたものです。この100人の中に、奄美出身者である朝山毅^{あさやまつよし} 奄美市長や、歌手の中孝介^{あたりこうすけ}さん、NPO法人ディ！の設立者、麓憲吾^{ふもとけんご}さんも入っています。100人いればそれだけの数の、心に残る風景や原体験があります。みなさんにとっての心に残る風景は何でしょう？

外に出るのは寒くて勇気がいりますが、思いきって図書館にいらっしゃいませんか？本との出会いで、心はぽかぽかあたたまるかもしれませんよ。

以上、鹿児島県立奄美図書館^{かごしまけんりつあまみとしよかん}でした。